

『男女共同参画宣言都市サミットinすぎなみに参加して』

十月三日、東京都杉並区杉並公会堂において『男女共同参画宣言都市サミットinすぎなみ』が、開催されました。私も委員会では、男女共同参画宣言都市である都留市(平成十二年二月四日宣言)を代表し、研修や交流を目的に参加しました。内容は、見事な東京阿波踊りで始まり、国の男女共同参画推進本部報告、作家の鈴木光司氏(ベストセラーとなった『リング』『らせん』『ループ』の3部作の作者として有名)による基調講演として宣言都市である自治体の首長を迎えてのシンポジウムなどであり、最後にサミット共同宣言がなされました。

今回は、参加しました三人の委員がそれぞれに感じた思いを報告させていただきます。

家としての成功と男女共同参画の実践者として大いに評価したい存在の方でした。

【委員 細田晃造】



平成12年度都留市と内閣府で開催された男女共同参画宣言都市サミットinすぎなみのつどい

サミットに参加して、まず感じたことは、「男女共同参画宣言都市」が山梨県では都留市と櫛形町の二カ所という少なすぎです。宣言することにより、住民の間に、男女間の隔てのない理想郷に等しい状態を育成するきっかけとなるベシシクな問題であります。県内他市町村も積極的にこの問題に取り組みなければならぬと思われ

ます。

シンポジウムにおいては、パネリストの一人である石川県小松市の西村徹市長の積極的行政手腕には感服いたしました。平成十二年に女性助役を選任し、文字どおりの女房役であり、市政、男女共同参画の金字塔を打ち立てた感、しきりでした。また、庁内職員の係

長的女性比率も三十九・七%の多きに感動しました。

次いで、基調講演の講師である鈴木光司さんは現在、作家として大成しておりますが、「新しい歌をうたおう」という題目で、初期の売れない作家生活を克明に語られました。その当時、収入は少なく、妻が高校教師であるため、経済面では相当負担をしていたのだ様子でした。一般の家庭とは異なり、鈴木さんが、炊事、洗濯、掃除、買い物、それに子どもが誕生すると育児全般も自分の責任で果たしてきたそうです。これが、作家活動に非常にプラスとなり、思わぬ体験が花開いた結果となつたそうです。一般の家庭とは全然反対の男女間であったことが、作

祭りを思わせるにぎやかな阿波踊りで始まったサミットに、私も遅らばせながら都留市男女共同参画推進委員のメンバーとして、参加しました。当日は、全国六カ所の市長を迎えてのシンポジウムが開催され、「全国男女共同参画宣言都市サミットinすぎなみ」の名にふさわしく、あらゆる催しが行われました。その中で、特に私が興味をそそられたのは、作家の鈴木光司氏による基調講演であり、内容は時には笑いを誘う專業主夫(注:主婦ではありません)の話でした。やらざるを得なくして

事(ヘイドワーク)をしている上での子育てについてユーモアを交え話をしてくださいました。

子育て体験の一例としては、妻が学校の先生であるため、子どもの保育園への送り迎えは、常に夫である光司氏が担当していたそうです。作家と主夫の2足のわらじをはいているため、着る服にまで気が回らず、子どもの送り迎えの格好は、いつもTシャツに短パン。そんな格好で、夕食の買い物もするものですから、八百屋のおばさんからは、たぶんリストラされ、妻にも逃げられたと思われたのでしようか、ニンジンを買えば、一本おまけにもらえたり、『その内、いいことがあるよ。がんばって』と励まされたりしたそうです。

また、子どもが風邪気味で、熱が高いと保育園で預かってくれたため、日頃の健康管理に注意したり、毎日毎日、子どもの顔色を良く見るようになったそうです。氏にとつて、子育てを通して子どもから与えられた経験により、作家活動へのモチベーションが高められ、そのおかげで数々の作品を生むことができたと言っていました。氏の話の中で、思ったことは、女性の社会進出が増加している中、いかに男女共同参画でなければならぬのか。また、共働きが急増する中での子どもの健全な成長には、父親とのふれあいが、いかに大切かをあらためて考えさせられた一日でした。

【委員 相川智恵子】

【委員 羽田ひで子】

これはまさに、男女共同参画を推進、拡大していく上で、忘れてはならない基本姿勢だと再確認しました。

また、「リング」三部作のベストセラー作家、鈴木光司氏の講演では、笑いあり、共感ありの氏の子育てを通して、父親が子育てに関っていく必要性やそのプラス面が語られ、家庭における今後の方向性が示されているように感じられました。

シンポジウムは、人口十万人から三十万という大都市の六市長がパネリストとして登壇したが、各自治体とも、具体的な数値目標を掲げ、多彩な事業を展開している内容は、今後の活動に多に参考になりました。数値目標の設定の必要性や地域推進(普及)の方法、相談室や推進センターの設置、情報誌や機関誌の発行など、私にとつて今後の課題が明確になった実り多いサミットでありました。

東京阿波踊りの軽快なリズムでスタートしたサミットは、主催者、参加者の熱気あふれる会合でありました。坂東内閣府男女共同参画局長の話の中に、「参画とは、参加ではなく、一番初めの企画から関っていくこと」であり、意見を言い、決定するが、決定されたことには、責任をもって従うということである。」という話がありました。

【委員 相川智恵子】

【委員 羽田ひで子】